

国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業

(報告)

議員名：杉本 美穂

(一般社団法人 日本ヒーブ協議会 代表理事)

【開催趣旨・目的】

一般社団法人日本ヒーブ協議会では、設立より約 35 年にわたり女性の資質の更なる活用を目指し、様々な業種の企業の消費者関連部門で「生活者と企業のパイプ役」として働く女性達が、自らの能力向上のための研究活動や情報交換を行ってきた。

その間、働く女性たちを取り巻く社会環境は変化し、女性のキャリアアップに対する行政・企業の制度は整いつつあるが、女性達はそのチャンスを十分に活かしてきれていないのが現状。社会経済の活性化、企業の成長のためにも、どのような働き方や意識改革が女性に求められているのかを各人が認識することが重要である。

このキャリアアップセミナー及び座談会を通じて、多くの働く女性達に、リーダーとしてグローバルに活躍する女性の働き方と視点、また自分たちと同じような立場で働く女性たちのキャリアデザインの事例を提示して、自らのキャリアを振り返り、自分たちの役割を明確化していくことの一助とし、男女共同参画社会の実現に繋げていくことを目的とした。

【シンポジウム等の名称・テーマ】

<キャリアアップセミナー>

テーマ「考えよう！ これからの女性の働き方 ～女性の活躍推進に向けて～」

【日時】 平成 24 年 12 月 5 日 (水) 13:30～18:30

【場所】 田町 女性就業支援センター ホール

【参加者数】 123 名

【プログラム】

開会挨拶： 内閣府男女共同参画局長 佐村 友子氏

第 1 部 基調講演 「女性の働き方変革を目指して 私たちが輝くために 」

佐々木 順子氏 (日本マイクロソフト株式会社 執行役カスタマーサービス&サポートゼネラルマネージャー)

第 2 部 パネルディスカッション 「私たち自身の働き方を考える」

パネリスト：黒瀬 友佳子氏 (帝人株式会社 CSR企画室室長)

中野 まゆみ氏 (パナソニック株式会社 アプライアンス社 品質革新本部製品安全センター
製品審査グループマネージャー)

上田 稚子氏 (株式会社アンデルセン・パン生活文化研究所 生活研究室室長、日本ヒーブ協議会理事)

コーディネーター：上 篤氏 (株式会社ウエ・コンサルタンツ 代表取締役)

<座談会> 平成 24 年 12 月 11 日

参加者：日本ヒーブ協議会会員 8 名

コーディネーター：水野 みち氏 (株式会社日本マンパワー キャリアカウンセラー)

座談会の内容は報告書にまとめ、日本ヒーブ協議会の他、様々な企業・大学等に配布している。

【参加者の声から】

キャリアアップセミナーについて

- ・今後のキャリアを考えるにあたって、大きなヒントをいただきました。失敗を恐れずチャレンジする！自分軸を持ちキャリアを重ねて行きたい！と思いました。元気が出ました。(40代女性)
- ・講師の皆さんが様々な困難を乗り越えて現在のポジションを得たことがとても印象的でした。自分も「手いっぱい」と愚痴をこぼさず、手法を変え気持ちをうまく切り替えて仕事と家庭生活を楽しみます。(30代女性)
- ・「出世なんて自分にはとんでもない」と考えていましたが、考え方が少し変わりました。なぜ仕事をするのか、働く意味について考え、リーダーを目指すことも考えたいと思います。(30代女性)
- ・講師のお話は、目からうろこの連続でした。今まで自分と人(同期など)を比べていたのでそれをやめ、自らをブランディングしていこうと思います。セミナーがきっかけを作ってくれました。(20代女性)
- ・今大学3年生で就職活動が始まり、自分について考えたり企業のことを調べたりしていたので、大変勉強になりました。社会人になったら、常に自分のマーケットバリューを意識し、自分らしさを大切にキャリアアップしていきたいです。(20代女性・学生)

座談会について

- ・チームとして成果を出すのであれば、私にもリーダーとしての役割が果たせると気づき、今後は自分の役割を見直し、よりスキルアップしていきたいと思っています。今後は失敗を恐れないという気持ちを持つとともに、チャレンジを恐れないチーム作りをしていきます。
- ・今後は自分をより客観視し、強み・弱みを意識したいと思います。最初からできないと言わず、何でもやってみようというチャレンジ精神を忘れずにいたいと思います。
- ・「失敗を恐れない」「修羅場に飛び込む」「やったことがないことをやってみる」というメッセージを受け取り、前に一歩踏み出さなくてはいけないという気持ちになりました。
- ・自分にとってどんな働き方が幸せなのかを今後も問い続け、より幸せな働き方を見つけていきたいと思っています。
- ・市場での自分の価値を意識したとき、常に自己を客観視していかなければ、自分自身の能力向上に繋がっていかないことに気づきました。また個人としての能力向上により、会社のブランド向上にも寄与していきたいと思っています。

【シンポジウム等を通して得た成果(効果)】

企業で働く女性を参加者とするセミナーであったため、「第3次男女共同参画基本計画」の重点15分野のうち、「第4分野 雇用等の分野における男女の均等な機会と待遇の確保」及び「第5分野 男女の仕事と生活の調和」に焦点をあて、特に女性自身の働き方への意識変革を目標として実施した。

働き方への意識変化について

- ・参加後のアンケートで「働き方」への意識変化をとったところ、87%が「変わった」と回答。参加者が前向きな「働き方」やキャリアアップを考えるきっかけとすることができた。

女性の働き方変革について（基調講演の効果）

- ・自分と向き合うことの大切さ、弱み・強みを見出し自分自身をブランディングする、仕事をする意味を考える、リーダーシップの固定観念の払拭など、強いメッセージを受け取ることができた。

私たち自身の働き方を考える（パネルディスカッションの効果）

- ・3名の女性パネリストの具体的な「働き方」（環境の変化にどう対応し、自分自身のキャリアアップにどう繋げたか、スキルアップのポイントなど）をわかりやすく語っていただき、参加者がより身近に、自分のこととして考える機会となった。

自分自身の働き方の深堀（座談会の効果）

- ・受け身で終わるのではなく、セミナーに参加して感じたこと、過去・現在・未来の自分にどう影響し、具体的にどう行動に移していくかなど、自分の考えを交換しあうことで、働き方への意識・課題をより明確にすることができた。
- ・また、自分の気づきを日々の業務に活かし、上司・同僚に伝えていくことで周囲の意識変革・理解を深めていこうという強い志しを持つこともできた。

意識の共有化・継続化（報告書作成の効果）

- ・このようなセミナーは、一過性で終わりがちになるという反省を踏まえ、セミナー後の座談会の内容も盛り込んだ報告書を作成。意識改革について周囲への共有化と継続的な取り組みに繋げるツールとした。

【今後の課題】

様々な業種・職種の女性が集う企業で働く女性の団体として、今後も等身大のロールモデルを社会に広く提示していけるように、引き続き会員の能力向上を目指す。

また、協議会内に留まらず他団体や教育界などとの交流を図り、就業意識の向上、共有化を目指していく。

さらに、雇用等の分野における男女の均等な機会と待遇の確保に向け、各企業内での働きかけと共に、協議会実施の調査結果を元に、男女ともに多様な働き方（特に今後の管理職のあり方を中心に）の定着を目指し、マスコミ等への働きかけを含め社会への提言活動を実施する。

以 上